

かかみがはらの埋文

各務原市埋蔵文化財調査センターだより 第9号

鵜沼西町古墳全景 空中写真
(2頁に関連記事)

埋蔵文化の重み

— 先祖の息遣い —

各務原市教育長 浅野 弘光

今年^{いぎやまじょうあと}は伊木山城跡、^{うぬまにしまちこふん}鵜沼西町古墳、^{とくやまさらきじんやあと}徳山更木陣屋跡を発掘いたしました。まだ整理中ですが、いずれも貴重な文化財を各務原市民に提供することになると考えています。伊木山では、はっきりと中世の城（砦風）の存在を確認しましたし、西町古墳は、古墳時代終末に木曾川沿いにまとまってある^{ほうふん}方墳の歴史的追求に新しい情報を提出しました。その上、西町古墳では、中世支配者の墓として古代古墳が再利用された可能性もあり、古代と中世が一つの墓を通じて結ばれる不思議を提供したとも言えます。徳山陣屋にしても、出土品は十八世紀後半のものが多いのですが現代の物も発掘され、当時の生活文化をのぞき見できるだけでなく、住み続けた人々のつながりを考えることができます。このように埋蔵文化財は、先祖の息遣いを今日に伝える重みがあるのです。市民の皆様の埋蔵文化財へのご理解とご支援をお願いして、挨拶に代えます。

鵜沼西町古墳

(所在地 各務原市鵜沼西町1丁目地内)



調査区全景 空中写真

鵜沼西町古墳は発掘調査の結果、市内でも大変めずらしい、一辺が約20mに及ぶ巨大な方墳であることが分かりました。古墳の東側と南側が後世の土地造成によって削られているものの、残りの状況は良好で、古墳築造当時の姿を良くとどめていました。



古墳を南から眺める

古墳の土盛り部分である墳丘ふんきゅうの周囲には、北側を除いて、上下二段の葺石ふきいしがめぐらされていました。石垣のようにびっしりと、ほぼ垂直に積み上げられています。上段葺石の高さは南に向かって徐々に高くなっており、墳丘の南面が最も高く積まれていました。当古墳は各務原台地上位面の北東縁辺部に立地しているため、北

から南に向かってかなり低く傾斜した斜面に築造されています。古墳から南を見下ろせば、大河川である木曾川がその昔は見渡せたことでしょう。木曾川沿岸は古来より交通要所として大いに賑わっていたといわれます。南側から古墳を見上げることを意識して、墳丘の南面が一番立派に造られていたのかもしれませんが。



石室 (南より)

石室は、畿内の影響が見られる両袖式りょうそでしきの横穴式石室よこあなしきせきしつでした。非常に大きな山石を使用した大型の石室で、玄室げんしつから羨道せんどうまでの長さは約7.4mを測ります。玄室、羨道、前庭部ぜんていぶは意識的に区別して造られていました。玄室には羨道よりも細かい石が床に敷き詰められ、さらに境には大きめの石を並べて明確な境界を成しています。そして前庭部は、床の高さが羨道よりも一段低く、羨道に向かってやや高く傾斜していました。中世における古墳の再利用などにより、石室内の副葬品としては須恵器すえきや土師器はじきの破片が確認できたのみです。しかし石室の形状や出土した須恵器から、7世紀前半に築造された古墳であると推定できました。このような古墳時代終末の大きな方墳は、美濃では、揖斐川・長良川・木曾川の大川沿いにまとまって分布しており、この頃に勢力を持っていた村国氏むらくにしや身毛氏むげつしといった豪族との関連も指摘されています。当古墳の発掘調査からは、各務原市、そして美濃の歴史を復元する際の貴重な成果が得られました。

伊木山城跡

(所在地 各務原市鷺沼字伊木山)

伊木山城の歴史的背景

伊木山城は木曾川北岸にそびえる伊木山山頂(標高173.1m)に築かれた戦国時代の城塞です。築城および廃城の年代は不明ですが、織田信長に属した伊木清兵衛が居城していたといわれています。

『信長公記』によれば、永禄8年(1565)の織田信長による東美濃侵攻で、伊木山城は木曾川渡河地点における軍事的拠点となり、美濃の斎藤氏に従う鷺沼城の大澤氏攻略の前進基地となりました。

発掘調査前の城跡の状況

城跡は伊木山の山頂を中心として、東西約100m、南北約30mの約3000m²の範囲に曲輪と考えられる平坦面が数段みられます。山頂の最高所には東西約25m、南北約20mの主郭部分が存在し、その中央南部には一辺約8mの櫓台状の遺構があります。

発掘調査の目的と方法

城跡の遺構の範囲や規模、遺構の性格などを把握するため、主郭の櫓台状遺構を中心として、東西南北の4方向に対して試掘溝を設定しました。また、曲輪の位置や形態を明らかにするため現況の地形測量も行いました。



主郭北側の石積み

曲輪の状況

発掘調査の結果、伊木山城跡は山頂の主郭を中心として東側に2段、西側に1段、そして南側に1段の曲輪を配していたことが明らかとなりました。全体の規模は東西90m、南北最大幅35mです。

主郭は東西29m、南北21mの広さです。中央南寄りの櫓台状遺構は、一辺が約8mの方形を呈する土壇と確認されました。

城跡の構築状況

主郭は、東部では表土直下に削平を受けたチャートの岩盤が検出されましたが、北部では岩盤が自然の傾斜で深く落ち込んでおり、そのため主郭の北縁部では厚さ約1.5mまで人工の盛り土がなされていました。伊木山山頂の尾根筋は細長く平坦部分が少ないため、こうした盛り土による曲輪の造成工事が行なわれたと考えられます。また、曲輪には全体に石積みがめぐらされていたことも明らかとなりました。



主郭西部出土天目茶碗

出土遺物

主郭西部の一段低くなった平坦面から16世紀前葉の天目茶碗が1点出土し、主郭東部の曲輪からも同時期の端反り皿とよばれる小皿が1点出土しました。いずれも小破片ではありますが、古記録にみえる16世紀後半の存城時期をさかのぼり、伊木山城の築城時期を考えるうえで貴重な資料です。

徳山更木陣屋跡

(所在地 各務原市那加西市場町3丁目地内)

この土地は、長く竹藪になっていましたが、江戸時代に旗本徳山氏^{はたもととくやましじんや}が陣屋を構えていたところで、更木陣屋絵図(市重要文化財)に描かれた地点として考えられていました。今回、公園整備計画に先立ち、陣屋跡の範囲や状態を確認するために、トレンチ(溝)による部分的な発掘調査を行いました。

江戸時代の各務郡^{かかみごおり}(ほぼ現在の各務原市)は、幕府直轄領、尾張藩領、そして旗本(徳山氏・坪内氏)の領地となっていました。旗本徳山氏の初代五兵衛則秀^{ごへいのりひで}は、最初は織田信長に仕え、次に柴田勝家に属していたそうです。その後、前田利家の縁で加賀に移り住みましたが、慶長五年(1600)、徳川家康に仕え、関ヶ原の戦いの後、五〇〇〇石を与えられました。

旗本徳山氏の領地は、出身地の徳山村と各務郡に分かれていました。徳山氏は、徳山村に陣屋を置き居館^{きょかん}としましたが、石高では各務郡の方が大きかったこともあり、各務郡西市場村にも陣屋を置き更木陣屋と称しました。各務郡の具体的な知行地は、西市場^{にしいちば}、山後^{やまうしろ}、岩地^{いわち}、桐野^{きりの}、三滝新田^{みたきしんでん}、大島^{おおしま}、野口^{のぐち}の一部の合わせて三一三四石余りでした。



発掘調査範囲の空中写真

発掘調査の結果、敷地内を囲む溝の状態が明らかになりました。屋敷の形状は、絵図によると東西に長い長方形で、検出された溝は、西側と南側の一部であると考えられます。

溝は、陣屋の正面側となる南側の規模が大きく、幅約3m、深さ約2mです。この溝には、途中で途切れる個所や、橋のようなものが架かっていた痕跡がありました。内部からは、陣屋で使用されていた陶磁器や鉄製品などが、多量に出土しました。また、この溝の屋敷側に接して、長屋^{ながや}が建っていたような痕跡がありました。陣屋本体については、礎石^{そせき}(柱の基礎の石)などの残りが好ましくなく、位置と規模の確定までには至りませんでした。恐らく、今回の調査対象範囲の外にも広がっていることと思われます。その他、遺構としては、土蔵^{どぞう}があったと思われる跡(1)、便所跡(1)、馬小屋^{たてあなじょう}の可能性もある竪穴状遺構(1)、井戸跡(3)を確認しました。

今回の発掘調査で出土した遺物は約5,000点で、内訳は瓦、陶磁器、鉄製品です。なかでも目立つのは肥前磁器^{ひぜんじき}(佐賀県・長崎県の焼き物)で、18世紀後半くらいのものでしょうか。また、旗本徳山家の家紋「丸頭合わせ三^{まるにあたまあ}地紙^{みつじがみ}」を施した瓦や陶製品も見受けられます。現在、整理作業を進行中です。



土蔵跡と考えられる部分

第2回 普及啓発講座
かかみ野古代史紀行

各務原市埋蔵文化財調査センターでは、昨年より市民を対象とした古代史講座を開催しています。2年目となる今年度は、「古代の暮らしと産業から各務原の地域性を考える」というテーマのもと、9月から11月まで合計6回の講座を開催しました。会場は昨年と同様、埋文センターのある中央図書館の4階、総合教育メディアセンターの研修室を利用して、それぞれ2時間の講座を行いました。各講座は専門とする研究者、専門家を講師としてお招きして、古代から中世にいたるまで幅広い内容の講座を目指しました。内容も考古学だけでなく文献史料からみた歴史学の講座もあり、講座内容が偏らないよう気をつけました。

今年度の講座も定員を30人として7月に募集を始めましたが、何かと行事の重なる秋の講座にもかかわらず、定員を満たす30名からのお申し込みがありました。昨年、今年の傾向を見てもみますと、女性よりも男性の参加者の割合が多いようです。

参加した受講者の皆さんは毎回熱心に講師のお話に耳をかたむけ、また休憩時間や講座終了後には、講座中に気になったところを質問するなどの姿が見られました。

かかみ野古代史紀行講座



講座のようす (第5回 上村氏)



《平成12年度 講師・演題》

第1回「木曾川流域の中世」

愛知県埋蔵文化財センター

小澤 一弘氏

第2回「美濃における群集墳と各務原地域」

岐阜県文化財保護センター

成瀬 正勝氏

第3回「奈良時代の集落」

愛知県立江南高校

小川 芳範氏

第4回「須恵器の生産と流通」

花園大学文学部

山田 邦和氏

第5回「土器の生産と流通」

三重県県史編さんグループ

上村 安生氏

第6回「律令人民支配と古代の各務原」

愛知県立大学文学部

丸山 裕美子氏

来年度、平成13年度の「かかみ野古代史紀行」講座は春から夏にかけての開催を予定しておりますが、講座数と参加者の定員を増やして、より多くの市民の方に参加していただきたいと思っています。

具体的な内容やお申し込みについては、また広報紙にてお知らせいたします。皆様のご参加をセンター職員一同お待ちしております。

第5回 夏休み親子体験講座
ふるさとかかみ野探検隊

毎年夏に開催している親子体験講座を、今年度は夏休みの初め、7月22日に行いました。

今回は「ふるさとかかみ野探検隊」と題して、午前中は市内の^{ろばた}炉畑遺跡、^{てんぐだに}天狗谷遺跡といった遺跡めぐりを、そして午後は室内でのミニチュア遺跡作りという内容で、7組16名の親子に参加していただきました。

当日はとても良い天気めぐまれ、午前中の遺跡めぐりでは、^{たてあなじゅうきよ}竪穴住居の涼しさや、^{かま}窯の大きさに驚きながら、太陽の下みんな一生懸命遺跡のスケッチをしました。遺跡の見学は、特にお父さんお母さんの中にも初めてという方が多く、地元でもなかなか遺跡を見る機会というのは少ないように思われました。



遺跡見学（天狗谷遺跡）

午後のミニチュア作りでは、午前中に描いたスケッチをもとに、木の枝を利用して竪穴住居を作ったり、粘土と石で窯を作ったりと、親子で協力して作業を進め、どれも立派な作品ができあがりました。



ミニチュア作り作業風景

また、この日作った作品は、8月から図書館3階の展示ホールにて作品展を行い、多くの来館者の方に見ていただきました。

こういった、親子で何かを作るという講座は「いつでもできそうだけど機会がない」と参加者のお父さんが言われたように、とても良い親子のコミュニケーションの場となるようです。

以下は参加者の感想文です。

あまり親子2人というきかいがなかったもので、とっても楽しかったです。

（伊藤 明日香・綾南小）

炉畑遺跡の竪穴住居は暗いけど、少し涼しかった。入り口はせまくて入りにくかった。

（小野木 祐太・綾南小）

竪穴住居と皿を作りました。途中疲れたけど、最後までがんばれたのでよかったです。

（木下 元宏・八木山小）

竪穴住居が夏すずしくて冬温かいのは、昔の人々のくふうと努力だと僕は思います。

（小林 寛和・鶴沼1小）

炉畑遺跡に行ったのは2回目です。私が一番かわいそうだなと思ったのは、家の中がとても暗いということです。

（田中 千尋・緑苑小）

昔の人は大きな岩を考えて作ったと思うと、大変だったろうな、となんとなく尊敬の気持ちがいっぱいでした。

（長浦 恵・聖マリア）

土や木などの材料しかないのに、家やつぼ、小物を作れるなんてすごいと思いました。

（長浦 泉・緑苑小）

なかなかうまくいかなかったけど、上手にできてよかったです。

（森 綾音・那加1小）

リーフレットの刊行

市内の遺跡などを分かりやすく説明したリーフレットを無料で配布しています。下記の「北山古墳群」、および「鵜沼古市場遺跡（A・B地区）」のリーフレットも刊行しました。

古代の須恵器と各務原

過去に各務原市内の古墳や窯跡から発見された須恵器を集成しました。壺や甕、そして瓶類などを主として、古墳や須恵器窯の変遷をたどりながら解説を加えています。須恵器の優れた機能である貯蔵具の美しさは古代の美でもあります。

新刊報告書の案内

報告書の購入を希望される方は、当埋蔵文化財調査センター事務室へお越し下さい。

ふな塚古墳発掘調査報告書

木曾川北岸の段丘上に位置する前方後円墳で、昭和59年に発掘調査が行われました。墳丘は二段築成で、全長45mと推定されます。全体に川原石積みによる葺石が良好に残り、主体部は現存しない後円部のほかに、前方部でも家形石棺を内蔵する横穴式石室が発見されました。築造年代は、出土した須恵器から6世紀後半と推定されます。

大牧5号墳発掘調査報告書

ふな塚古墳の北側に位置する直径約16mの円墳で、昭和59年に発掘調査が行われました。墳丘はすでに失われていましたが、主体部は川原石積みの胴張りを有する横穴式石室です。玄室からは後世の攪乱を受けない状態で多くの須恵器が出土しており、6世紀中葉と後葉の二回にわたって埋葬が行われたことが推定されます。

北山古墳群発掘調査報告書

平成6年に、山土採取工事に先がけて緊急発掘調査をした古墳です。1号墳・2号墳と命名した2基の古墳を調査しました。1号墳は擬似両袖式、2号墳は両袖式の横穴式石室を構築した円墳です。2号墳は、残存状態も良く、外護列石を伴う直径約17mの二段築成の墳丘です。いずれも6世紀の終わり頃から7世紀の終わり頃にかけて運用されたものです。

鵜沼古市場遺跡B地区発掘調査報告書

平成10年の発掘調査により、古墳時代後期、6世紀後葉～7世紀初頭の竪穴住居が1基検出されました。一辺5.5mを測り、四隅が丸みを帯びた方形の住居跡です。残存状態は良く、カマドや貯蔵穴、柱の穴が確認できました。カマドや貯蔵穴からは、伊勢の方から持ち込まれた土師器の甕（伊勢型甕）が出土しています。

出土遺物保存事業

発掘調査によって遺跡から出土した遺物のうち、木製品や金属製品などは、適切な処理を施さなければ徐々に劣化が進行していきます。こうした劣化を防ぐため、埋蔵文化財調査センターでは、化学処理を施した後に保存しています。今年度は、「熊田山北古墳群（平成10年度調査）」、および「鵜沼古市場遺跡B地区（平成10年度調査）」から出土した鉄釘など、鉄器類の保存処理を行いました。

日誌抄 (2001, 1現在)

◆見学・来訪

4/12	犬山市教育委員会 小沢・落合氏来訪	
4/14	蘇原第2小学校6年生見学	108名
4/18	那加第1小学校6年生見学	103名
	那加第2小学校6年生	
	徳山更木陣屋跡見学	103名
4/27	大垣市教育委員会 大橋・石田・中井氏来訪	
5/7	愛知県埋蔵文化財センター 石黒氏来訪	
5/19	多治見市文化財保護センター 山内氏来訪	
5/31	三重大学名誉教授 八賀氏	
	鶴沼西町古墳発掘調査現場見学	
6/13	各務小学校天狗谷遺跡見学	8名
6/23	那加第2小学校2年生見学	15名
7/12	古代史同好会会員	11名
	徳山更木陣屋跡・鶴沼西町古墳発掘調査現場見学	
7/19	動く市民教室(自治会連合会役員)見学	18名
7/26	木曾広域連合埋蔵文化財調査係見学	4名
8/9	夏休み親子動く市民教室見学	30名
8/19	歴史サークル会員	
	徳山更木陣屋跡発掘調査現場見学	20名
8/23	動く市民教室(大牧団地子ども会)見学	23名
10/18	由宇町文教厚生常任委員会委員視察	6名
10/19	動く市民教室(公募)見学	17名
10/25	沖縄県平良市議会総務財政委員会委員視察	9名
11/5	図書館体験講座見学	7名
11/25	岐阜大学助教授 早川氏来訪	

◆資料実見・貸出

4/1	愛知県陶磁資料館 美濃須衛古窯跡群出土資料貸出 (平成6年より継続)
6/4	「弥生土器を語る会」 宮塚遺跡出土の弥生土器実見 明治大学教授 石川氏ほか30名
8/24	岐阜市歴史博物館 特別展「発見された日本列島2000」 熊田山北古墳群出土資料貸出(～10/6)
9/27	瑞浪陶磁資料館 特別展「美濃の陶硯・水滴」 稲田山古窯跡群出土資料貸出(～12/12)
10/31	岐阜県県史編集室 「分かりやすい岐阜県史」掲載 宮塚遺跡A地区など、写真資料貸出(～11/30)
1/18	可児郷土歴史館 特別展「飛騨・美濃発掘調査速報展」 天狗谷古窯跡群・熊田山北古墳群出土資料貸出 (～3/29)

◆職員派遣・指導鑑定等

8/20	犬山市教育委員会主催 ふるさと学園「親子体験教室(勾玉づくり)」職員派遣
10/2	犬山市教育委員会主催 ふるさと学園「文化財講座」職員派遣
10/29	坂祝町教育委員会主催 坂祝町民大学「各務原市の史跡めぐり」職員派遣
12/4	(財)岐阜市教育文化振興事業団 市内遺跡出土遺物の鑑定指導

編集後記

今年度は発掘調査を計3カ所において実施しましたが、多くの方のご協力を頂き、無事終了することができました。来年度で当センターも10周年を迎えます。今後どうぞよろしくお願いいたします。(S)

〈埋蔵文化財調査センターのご案内〉

開館時間：午前10:00～午後5:00

休館日：月曜日(月曜日が祝祭日の場合はその翌日)

祝祭日の翌日(その日が土曜日、日曜日、休日の場合は、更にその翌日)

年末年始(12/28～1/4)

市教育委員会の定める日

交通：名鉄各務原線市民公園前駅下車徒歩一分

入館料：無料

駐車場：右図参照(JRと名鉄の間)

各務原市埋蔵文化財調査センターだより 第9号

〈平成13年3月〉

編集
発行

各務原市埋蔵文化財調査センター

〒504-0911 岐阜県各務原市那加門前町3-1-3

TEL 0583(83)1123 FAX 0583(71)1145

